



恵明新聞

No.117

令和6年6月3日発行

感謝と祈り

令和六年五月三日に静岡恵明学園児童部で例年の不二見地藏尊、不動明王尊祭りが行われました。五月晴れの中、地域の方々、子ども達が通う学校関係者の方々、市役所・各議会関係者の方々も列席してくださいました。模擬店や会場の設営にはたくさんボランティアの皆さんが来てくださいました。その時私の心にある歌が流れたのです。

♪爽やかな風、身に受けてさあ元気に歩こう、僕の好きなお姉さん、お兄さん♪といった歌詞だったと思います。今から六十年以上前、三島市山中新田に静岡恵明学園の園舎があり、そこへ三島の勤労青年男女がたくさん歩いてやってきました。三島ワンダーフォーゲルの皆さんです。まだ人に知られていない頃の学園へ来て豚汁会、餅つきの会を催してくださいました。楽しみの少なかった学園の子ども達にとってお兄さんお姉さんと過ごす時は楽しいものでした。山奥の洞にあつた学園に若人の声がこだましていました。現在は、たくさんの方々からボランティアに来ていただいています。現在、たくさんの方々からボランティアに来てくれた故宮崎弥一さんを代表とする三島ワンダーフォーゲルはボランティアの最初の皆さんです。物が無い時代の心と心の出会いです。このことを思いだし、そこからたくさんの方々の皆様にご支援ご協力を頂いて学園の今日があるのだと感謝しました。

世に生まれた子ども達が自己肯定感を持ち、幸せな人生がおくれますますようにと不二見地藏尊、不動明王尊に、お祈りしたお祭りでした。

社会福祉法人 静岡恵明学園

理事長 杉村 伸一

児童部施設長就任ご挨拶

護らなければならぬもの



今年四月より、児童部施設長に就任いたしました。児童部に入職してまだ十年にも満たない若輩者の私が、七十年以上の長きにわたり、子どもを護り育ててきたこの児童部の施設長という重責を果たしうるのか、自問自答の日々を過ごしています。

児童養護施設は今、そのあり方を問われています。児童福祉法では、同法が理念として掲げる家庭養育から最も近い場所として位置づけられています。「どうしても行き場がないのであれば、施設入所もやむなし」そんな消極的な理由でしか選択されない場所になろうとしています。

しかし、児童部には今日も子どもたちの声が響いています。怒ったり笑ったり、時に羽目を外してみたり。毎日を懸命に生きる子どもたちの姿があります。そして、そんな子どもたちに翻弄されながらも寄り添おうとする大人の姿があります。社会からどんな評価を受けようとも、護らなければならぬものが、児童養護施設には確かに存在していると感じています。

「新しい年が明けて世の中の風景も変わろうとしています。そんな時だからこそ、人が幸せになるために、変えてよいことと変えてはならないことの見定めが求められています」

故加藤秀郷元園長先生から生前にいただいた年賀状に刻まれていたお言葉です。何を变え、何を变えてはならないか。その答えはきっと、子どもとともにあることで見えてこないのでしょうか。

子どもたちに揉みくちやにされながら、その答えを見つけていきたいと思っています。

春日 由紀子(施設長)

静岡恵明学園児童部

山の家だより

担当の子との一年を振り返ってみて

社会人になり一年が経ちました。担当の子との関係も一年になりました。

その子は正義感が強く、活発な女の子で私が担当した当時は小学六年生でした。小学生には寝かしつけの時間があり、夜は部屋を暗くして、一定の時間お話を聞いていました。心理テストの本と一緒にやったり、マッサージを頼んできたり、恋バナをしたり、子どもときちんと向き合えている時間に思えて好きでした。しかし、その子は宿題に取り組みまなかったり、片付けが苦手だったりしたこともあり、私も声をかけることが多くなりました。

それがその子にとって嫌で、無視されたり、反抗されたりと関係が悪化しました。夜の寝かしつけも、拒否されるようになり、その子と関わるのが怖くなり、自分自身も距離を置いた接し方になっていきました。関わりが無く

なることで、たしかに悩みも減りました。でもこれでもいいのかな。とも思っていました。私がこの仕事を選んだ理由を思い返しました。私は子どもたちと信頼関係を築き、子どもたちの人生にとってのなにかになれるといいなと思っていました。そのため関わりを避けるのは違うと思いい直し、怖かったのですが色々試行錯誤しながら、担当の子に関わり続けました。いつからか寝かしつけの時間が復活し、昼間に喧嘩しても時間になると必ず「部屋に行くよ」と呼んでくれる様になったことが嬉しかったです。

年度が変わり、中学生になった事で寝かしつけの時間は無くなり、思えば無くて嬉しかった。辛い事がたくさん詰まっていた良い一年でした。

望月麻里奈

(児童指導員)

地域小規模児童養護施設

さくらの家だより

永遠のお兄さん

恵明学園児童部に就職して早十四年。今年で三十六歳を迎えることになる。先輩職員の皆様からの批判を重々承知で言わせてもらうが、私もおっさんの部類に入ってきている。いや、どっぷりおっさんである。そんなこと言ったら私たちはどうなるの!?と言った苦情は受け付けないのであしからず。

若かりし頃は体力にも自信はあったし、何より食べて寝ればどうとでもなった。それがどうしたことが、食べて寝たところで体力は回復しない上に太るのである。切実に勘弁してもらいたい。担当児童の入学式に着たオーダーメイドのスーツが苦しいのなんの。あの頃の自分に声を大にして言いたい。少し余裕を持って。かっつけてスマイルなスーツなど作るなど。歳には勝てないのだと。

とまあ、今更何を言っても遅いわけだが、そんな私も子どもたちからは「お兄さん」と呼ばれている。いいおっさんが「お兄さん」である。いくらか歳を重ねても、ここで働いている限り私は「お兄さん」なのである。事実、卒業生からも

いまだにお兄さんと呼ばれている。つまり私はおっさんではないということになる。永遠の十七歳だの十八歳だのと言われる部類と同じくくりである。

何が言いたいか自分でもよくわからなくなってきたいるが、世の中の親子の関係と似たものがそこにあるのである。私も担当した子どもたちはいくらか歳を重ねたところでかわいい子どもには変わらないし、子どもたちにとっても私はお兄さんなのである。

頼れるお兄さんとして居続けるためにも、緩んだ体を引き締めながらその責務をこれからも全うしていきたい。溝口 翔平(児童指導員)

はなみずきの家だより

地域小規模児童養護施設

かがわりあい

地域小規模施設である「はなみずきの家」は、三島市の街中にあるので、近所の人だけでなく、仕事に向かう方、観光客の方など、たくさんの方が家の前を通ります。

「おはようございます。」「こんにちは。」「の声や、時には会釈などの挨拶をすることが日常になつていきますし、家の前の道路が通学路にもなっている

ので、学校のお友だちが、ちょうど通りかかると、一緒に登校することもよくあります。

四月八日、花まつりの日に、はなみずきの家の近所にあるお寺に、お参りに行きました。お寺の本堂に上がり、お釈迦様の像に甘茶をかけ、手を合わせてお祈りしました。お寺さんには、何か行事がある度に声を掛けていただいています。外で遊んでいる時もお寺さんや隣近所の方が、子どもたちを見守ってくれているのを感じます。

私は、この四月から本施設設から、はなみずきの家に異動してきました。こちらには

浅田 ふみ代(保育士)

児童家庭支援センター「スマイルだより」

将来に向かっての宝探し

令和六年度がスタートしました。子ども達一人ひとりジャンプの時です。

先日或る高校の入学式に参列しました。高校の入学式は事前の練習はなく、朝、体育館に現地集合で着席して直ぐに式が始まりました。

式の間は緊張感があり、先生の号令にキビキビと返事をして、話を聞き前時間だと思えました。校長先生の話の中で「これから君たちは宝探しをするのです。それは金銀財宝の物の宝物ではなく、高校の生活を楽しみながら将来の自分がどんな事をするのか、を探しながら様々な経験をする事。それが宝探しなのです」とありました。子ども達自身が納得する充実感のある生活を送る事で、努力して得た宝物を大切にしていきます。それが自立できた生活であれば、本当に嬉しい。私たち相談支援をする者は、宝探しの地図と方位磁石と知恵を提供していきたくです。当然子ども達の宝探しの時間と探索の歩み



しをして再スタートしました。心新たに始動したその矢先「コロナ感染」が騒がれ、社会情勢が大きく変わりました。求めら

アップデート

平成から令和に変わる年、児童家庭支援センター「スマイル」が谷田に移転し、私たちは大きなアップデートをしました。今までの事業を継続しつつも、内容・姿勢・構想などの見直

しをして再スタートしました。心新たに始動したその矢先「コロナ感染」が騒がれ、社会情勢が大きく変わりました。求めら



るニーズも複雑になってきて、試行錯誤しながら対応してきました。そして今年、最初のアップデートから五年の歳月が経ちました。おかげ様で「スマイル」の活動に理解を寄せ下される方も増えました。相談支援員としての私も、今までの経験や学習で得た知恵や知識だけでは対応しきれぬものではないです。



はなく、個人としても研鑽を積み、アップデートし続ける自分でありたいと思います。

里親支援担当より

我が娘の中学時代、クラス懇話会に参加しました。「自己紹介とこともさんの良い所をお話し下さい」と担任の先生が説明された瞬間、私をはじめ他の保護者のみなさんに、戸惑いと驚きの空気が漂いました。こどもの良い所がすぐには思いつかないのです。



地元の幼稚園や小学校、中学校と長いつきあいの方も多く参加されています。幼い頃は、子どもに関するいろんな話をして、共に成長を喜びあっています。

た。いつからでしょうか、お互いにこどものできない所ばかりが話題となり、愚痴が多くなっていました。乳幼児期、こどもたちに立ちふさがる関門(嫌いな食べ物、トイレトレーニング、おはしの使い方、自転車乗り、水遊びなど)があります。なんとかして克服できるように保護者も工夫し、失敗しながら繰り返し、成功した時には「できたよ。がんばったよ」とできたね。がんばったね」と笑顔で手を取り合い、抱き合い喜んだことでしょうか。かけがえのない、大切な思い出です。

青年期(中学生)にも立ちふさがる関門があります。進学先の決定や職業選択など、自分自身が決定しなければならぬという事です。自己決定の重圧に逃げてしまったり、投げやりになったり、反抗心をぶつけてくるこどももいることでしょうか。しかし、こどもには成長する力があり、成長したいという気持ちを持っています。歩みはゆっくりでも、こども一人ひとりの可能性を信じて、険しい道程を支援する存在であり続けたいと思っています。



三島ワイズメンズクラブ様との繋がりは、農業体験のお誘いからでした。ワイズメンズクラブ様が坂地区の畑を借りて、大根や白菜などの冬野菜を育てた時に、学園の子どもたちに収穫体験のお声をかけていただいたのです。それが縁で、その後紙作り体験や三島市内の水辺散策、学園のお祭りの模擬店スタッフなどで関わっていただきました。特に子どもたちとたくさん関わっていたのが学園の「山のクリスマスパーティー」です。会員の方がサンタク

ロースに扮して歌を歌ったりクイズやゲームをしたりと盛り上げてくださいました。用意して下さったケーキを皆でいただき、楽しいひと時を過ごすことができました。

三島ワイズメンズクラブさん
昨年五月のコロナ感染症が二類から五類へ移行したことにより、学園では少しずつボランティアの受け入れを再開していません。七月の恵明七夕まつり、今年度は五月のこどもの日の集いにおいて、三島ワイズメンズクラブの方がコロナ禍前同様、模擬店のお手伝いに参加していただきました。



ボランティア File NO.8

赤ちゃんセンター



乳児部

嬉しい春

大きい子組の保育士として春を迎えるのももう十数回目となりました。四月は入学式を終えた子どもたちが乳児へ晴れ姿を見せに来てくれます。毎年とても楽しみで嬉しのですが、今年の春は私が一年目で見ている子どもたちが高校の制服を着て会いに来てくれ感激もひとしおでした。その一人にK君がいます。私をこの乳児院へ入職するきっかけを作ってくれた子です。実習でK君に初めて会い、お世話をさせてもらいました。もう一度一緒に過ごしたいと思った事で、私は乳児院への就職を決めました。小さい頃はお部屋遊びが好き



で、お散歩へ行く時間になると「○○ちゃんとお留守番する」と言っていたK君でしたが、今ではスポーツを頑張っています。初めての二人夜勤、子どもたちが何を伝えているのか分からず困っていると「○○ちゃん、トントンをやる順番であたふたしている私をK君は順番を譲り、私のエプロンを抱きしめて順番を待っていてくれたり。一年目で不安だった私をいつも助けてくれたとても優しい子でした。そんなK君の凛々しい制服姿、お祝いのプレゼントを渡すと敬語

で挨拶をする大人っぽい姿でも笑顔は小さい頃のK君の面影を思い出し目頭が熱くなりました。今一緒に過ごしている子どもたちも健やかに大きくなってくれるよう日々の保育を大切にしていきたいと改めて思いました。また来年、桜が咲く頃大きくなった子どもたちに会えるのが楽しみです。

森口 有紗(保育士)

新生児との二年間

乳児部に勤務して二年目に入る頃、新生児さんが入所しました。新生児さんをあまり抱いたことがなかった私は、先輩方に抱き方や、おしめの替え方を教わり、緊張の夜勤を迎えました。生後数日のR君をタオルごとそと持ち上げて、教わった通り腕の中



に迎え入れた時、やっとほつとすることができました。新生児を抱っこした感覚はとても軽く「ふわっ」としていました。抱っこした時は「小さいなあ」と大きくなくなった姿を想像できない存在でした。ですが玩具に興味を持つ

てずり這いを始め、今では自分で立ち上がって歩いています。その瞬間に立ち会えることがとても嬉しく、出来ることが多くなる度に感動を貰っています。抱っこをするとずっしりと重く「大きくなったんだな」と感じます。そう思えるのはこの一年間の中でR君をたくさん抱っこさせていただいたことで分かる重みだと感じます。たくさん嬉しさと共に二年を過ごし、これから



も子どもたちの成長の重みを感じながら精進していきたくと思います。勤務して二年目の頃は覚

えることで

頭がいつぱいになり、中々子どもの成長や変化に気づくことが出来ませんでした。少し余裕のなかで、先輩方のように変化に気付けるようになったと感じます。三年目に入った今、より責任

感を持ち、子どもたちが安心して生活を営めるよう努めていきたいと思っています。

山本 明(保育士)

自主訓練

「ピー」と笛の音が聞こえたら、押し入れに逃げろ」が乳児部の大きい子組の不審者侵入訓練の約束です。



いつからか、年に一回の恵明学園乳児部の不審者侵入訓練が、大きい子組では月に数回、多い時は週に数回行われています。この自主訓練は子どもたちのリクエストです。しかも、不審者役、不審者と戦う人、押し入れに一緒に入る人など、大人達の配役まで楽しそうに子どもたちが決めてくれます。いざ自主訓練が始まると、泣きだして動けなくなる子、本気で戦おうとする子、素直に押し入れに隠れる子など反応は様々です。回数を重ねるうちに泣いていた子も、笛の合図だけで走って押し入れに行けるようになりました。た

だ、時間を空けてやると忘れてしまい、再び泣いて動けなくなるので訓練は大事だなと感じました。本当に笛を吹いて、逃げなければいけない日が来るのは困ります。ですが、もしもの時のために保育者が皆で話し合い、改善を重ねて、一番に子どもたちの安全を守りたい。日々の遊びの中で不審者侵入訓練を取り入れて続けていきたいと思っています。

関沼 祥子(保育士)



恵 明 園 保 育 園

涙から笑顔へ

今年もまた新しいお友だちがやってきて、新年度がスタートしました。

毎年四月になると、初めてご両親の元を離れて不安でいっぱい。涙、涙の新人園児さんの姿が見られます。「大丈夫だよ。早く慣れて一緒に遊ぼうね」と声を掛けながらお姉さん自身がおもちゃで遊び、楽しさを伝えていますが、そんなお姉さんの対応も年々、余裕が感じられるようになってきました。

保育士として働き始めた頃の四月はとにかく必死でした。時には（何で泣き止んでくれないんだろ...）と一緒に涙する日もありました。そんな四月を何度か乗り越え、立派に成長して卒園していく子どもたちを送り、「どんなに泣いていてもいつか笑顔



こちらで働かせていただき二年半が過ぎましたが、それでも子育てをしながら沢山の仕事を経験してきました。ど

を見せてくれる日が絶対に来る」という経験が自信となり、その積み重ねが心に余裕を持たせてくれるのだと実感しています。慣らし保育の期間を終え、今年もまた涙から笑顔へと変化したお友だちが増えました。これから若葉の緑が眩しい中、かえるやだんご虫探しに夢中となり、暑い夏のプール遊び、どんぐり拾いの秋に落ち葉や、霜柱集めの冬とたくさん経験の積み重ねていきます。



一歩の勇気

伊沢 恭子(保育士)

今年度、私は子どもたちと一緒に進級して二歳児クラスの大きい子組を担当させて頂いています。すぐ隣の部屋とはいえず、少し広い部屋になり、それぞれの椅子に座り朝の会を行い、小さい子組の時とは違う日々になりました。子どもたちは一週間もすると新しい生活に慣れて、率先して動いてくれる子も多



こちらで働かせていただき二年半が過ぎましたが、それでも子育てをしながら沢山の仕事を経験してきました。ど

の仕事もやりがいがあり、頑張っていました。子育てが段階する頃になると「自分が本当にやりたい」とは何なのだろうか」と自分と向き合った時に、保育士だけは携わる勇気が無く、諦めていたことを思い出したのです。子育ての中で、我が子に日々「頑張れ」と言っているのに、私自身が苦手なことから逃げていくことに気づき、一度の人生と勇気を出して飛び込みました。

みんなの成長

山根 友美(保育士)

私は今年度、二歳児のクラスを担当させて頂いてます。一歳児クラスで二年間共に過ごした子ども達と一緒に



量も増えて、考える力もついてきた子ども達。保育者としてこの子達にしてあげられる事は何か、どうしたらより楽しく充実した毎日を過ごせるのか。慌ただしく過ぎていく日々の中で子ども達の「やりたい」という気持ちを大切にしながら、様々な事に挑戦していきたく思います。子ども達と一緒に成長できると思いついた時、子どもと共に私自身も成長できると思えます。

この年間大変な事も沢山あるかと思いますが、子ども達の成長と笑顔が糧に子どもが恵明保育園大好きと思ってもらえるように頑張りたいです。

齋藤 愛羅(保育士)



宮さんの杜通信

2024. 4

暖かい春の陽気になりました。外にお散歩に出かけ、元気にたくさん体を動かしましょう。今年度も親子の触れ合いを大切にしたいと工作やリズム遊びを行っていきたく思います。どうぞお気軽にご利用ください。

今月は5月5日のこどもの日にちなみ、「おやこでこいのぼり」を予定しています。こいのぼりの製作をして、おたをうたって楽しみましょう。



* ちょこっとコラム ~ 親子で交通安全 ~ *

春の交通安全運動が実施されます。この機会に交通安全について改めて考えてみましょう。車にお子さまを乗せる際はどんなに短い距離でも、安全のためチャイルドシートを着用しましょう。また、子どもは遊びに夢中になったり、道路の向こうに何かを見つくと、急に飛び出してしまうなど、大人が予想もつかない行動をとってしまうことがあります。お子さんとお出かけの際は横断歩道の渡り方、信号の見かたなど親子で確認しながら歩いてみましょう。

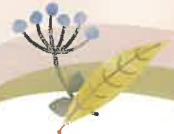
● 三島市大宮町2丁目2-11 tel.055-991-0010



子育て支援センター



それぞれの子育て支援センターの「子育て支援センターだより」を紹介します。地域の子育て親子さんたちが多数訪れ、楽しく過ごしています。今年度も楽しく利用できるよう、イベント等用意し、スタッフ一同お待ちしております。



利用日：月曜日～金曜日 10:00～16:00
子育て相談、園庭開放も随時



じゃじゃまる通信

2024. 5

あたたかい風がそよぎ、大空にはこいのぼりが気持ちよさそうに泳いでいます。5月はみんなが楽しみにしている長いお休みがあります。ご家族で一緒に過ごす時間も増えると思いますので、この機会に色々なことにチャレンジしてみたいかでしょうか。今月のじゃじゃまるは、春を感じながら楽しく過ごしていきたいと思います。

5月14日は北上文化プラザのお部屋をお借りしています。ぜひ遊びに来てください。

ちょこっとコラム

～離乳食の基本の1き～

生理にわたる「食の基本」は、離乳期の大人とのかかわりが土台になります。様々な言葉かけをしてもらい、適切な援助のもと、また周りの大人自身の食に対する姿勢(おいしそう、楽しそう)を見て感じ取りその子自身の意欲を育んでいきます。1人ひとりの発達と心に添った援助を確認し、日々の生活を充実させましょう。

● 恵明キッズフヨウビレッジ内
三島市芙蓉台2-3-17 tel.055-987-7922



ほこ通信



2024 4

おひさまぼかぼかうれしい春。こりにちようちよ、だんご虫など、園庭にお友だちが訪れる季節となりました。園庭にそよぐ心地よい春風は、いろいろな出合いを運んでくれて子どもたちもニコニコうれしそうです。今年度の「ほこ」もたくさん新しい出合いを大切にして、楽しく過ごしていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

★ちょこっとコラム★

～楽しく草相撲～

お子さんとオオバコの草相撲をしてみませんか？10cm以上の茎を互いに持ち、真中を引っ掛けて引っ張り合います。茎が先に切れたほうが負け。「よ～し、もう一度！」と何回も挑戦したくなります。春の柔らかな日差しを浴びながら楽しむ草花遊びは、気持ちがゆったりほかほかしてきますよ。



● 恵明キッズコスモスビレッジ内
三島市谷田1629-38 tel.055-973-7778



フリップパー通信



令和6年5月

新緑がまぶしい爽やかな季節になりました。

5月5日は「子どもの日」。こども園では手作りの鯉に、子どもたちが絵を描いた鱗や、手形をつけた鱗を貼って、オリジナルの大きなこいのぼりが完成しました。大空を気持ち良さそうに泳ぐこいのぼり。のびのびと元気に遊ぶ子どもたちのようです。今月は大型絵本の読み聞かせや虫歯予防のお話などを企画しています。沢山のご参加をお待ちしています！

* ちょこっとコラム ... たくさん遊ぼう! ...



戸外で遊んだり、お散歩に出かけたりするのに気持ちのよい季節になりました。公園へ出かけて体を動かして遊んだり、草花遊びや虫探しなど、この季節ならではの遊びや探検がいっぱいあります。お天気の良い日はお子様と一緒に、公園でランチもいいですね！季節を感じながら元気に遊び、よく食べよく寝て、健康な体作りにも繋がります。



● 恵明キッズサクラビレッジ内
三島市文教町2-28-6 tel.055-943-6878



ローズ通信

2024. 4

園庭のチューリップが色とりどりに咲き揃い、ドキドキワクワクの新年度がスタートしました。4月からの新しい環境にお子さまもお家の方も少しずつ慣れていけるようこども園と連携してサポートしていきたいと思います。今月の支援センターでは、こいのぼり製作を予定しています。親子でぜひ遊びに来て下さい。



★ ちょこっとコラム ★ ~ 日本三鳴鳥(さんめいちょう) ~

日本に生息するさえずりが美しい鳥の三種が、ウグイス・オオルリ・コマドリです。その中の1つでウグイスが「ホーホケキョ」と鳴くのは縄張り内を見張っているオスで、メスに対する「縄張り内に危険なし」の合図だそうです。鳴き方にも色々な意味があって興味深いですね。ぜひ、親子で耳を澄ませて聞いてみてください。



● 恵明キッズローズビレッジ内
駿東郡清水町堂庭89-16 tel.055-943-5519

恵明キッズ

フヨウビレッジ



わくわく
どきどき

フヨウビレッジの隣のあじさい公園の八重桜が満開に咲き、新年度が明るくスタートしました。今年度私はふよう組を担当し、こども園で一番大きなお兄さん・お姉さんとなりわくわくしているふよう組さんと毎日楽しく過ごしています。年長組となり、すみれ組さんのお手伝いを進んで頑張る姿が見られ、朝は自分のお支度を済ませて急いですみれ組さんのお部屋に向かい「どこまでできた?」「一緒にやろう」と優しく声を掛けています。振り返ると2年前にお兄さん、お姉さんに同じように手伝わってもらっていた姿が浮かび、自然と引き継がれて先生が声を掛けなくても進んで行う姿に成長を感じました。

年長組になると沢山の新しい活動が始まります。富士山係は当番バッチを胸につけ、朝の会でみんなの前で発表したり園長先生にも報告しに行き、緊張しながらも頑張っています。また、竹馬にも挑戦し始め「ちよと怖いな...できるかな?」と不安気でしたが、お友だちと一緒に少しずつ練習を重ね「一歩足出せたよ」と初めての歩に目をキラキラさせています。上手にバランスをとって歩けるようになったお友だちを見て「私も頑張るね」とお互い良い刺激となっています。



まだまだ沢山のことを経験していきます。「できた」という気持ちを大切に一緒に喜びを感じながら新しい目標に向かって「やってみよう」「頑張ろう」というこどもたちの無限の可能性を信じて向き合い、寄り添っていききたいと思います。

嶺岸 奈緒美(保育士)

初心を忘れず!

今年の3月、短期大学の保育学科を卒業し、晴れて幼少期から志していた保育士となりました。フヨウビレッジの一員となつて早3週間が経ちましたが、まだ分からないことばかりです。先生方に子どもとの関わり方や一日の活動の流れを優しく教えて

いただきました。泣いている子どもたちになんと声をかけて良いのか戸惑いもありましたが、積極的に笑顔で話しかけるように心がけていました。

そうこうするうちに、ずっと泣いていた子どもの好きな玩具を見つけたことができました。ピタッと涙が止まって微笑みかけてくれた時は心が通い合ったような気がしてとても嬉しかったです。最近では、楽しく遊ぶ子どもたちの姿が多く見られるようになりました。

まだ保育士として未熟な点ばかりですが、先生

いただきながら日々を過ごしています。子どもたちも「先生一緒に遊ぼう」と遊びに入れてくれたり、困っている時「これはここに置くんだよ」と教えてくれたり温かく私を受け入れてくれました。

また、今年4月に私と同様にフヨウビレッジの仲間入りをした新入園の子どもたちとの関わりも大切にしています。



になり、抱っこをするとピタッとくつき安心して体を預けてくれます。抱っこ紐でおんぶをするとき、少しづつ第二の安心できる場所になってきているのかな?と嬉しく思います。そして、お外遊びが始まり、園庭に出られるようになると、どの子どもとも嬉しそうに遊び出します。心地よい春の気候の中で、ボールを転がしてみたり、砂場で砂まみれに



新年度が始まりました

今年度はつくし組の補助としてスタートしました。入園進級式の前日は進級することへの期待と

喜びからたくさん笑いの声と、楽しい話し声でいっぱいだった保育室も入園式の翌日には、泣き声も響き渡り、とても賑やかでした。今まではずっとお家の方と一緒に、安心できる家で過ごして来た赤ちゃん達。初めての場所ですごく不安な気持ちで泣いてる会う人。みんな泣いてるし「ここはどこ?」と戸惑いと不安の気持ちがあふれていました。しかし、子どもたちの適応能力はとてつもないもので、2日目、3日目と徐々に部屋や保育士に慣れていき「おはよう」と声を掛けると手を伸ばしてくれるよう

がらバケツに詰めたり、ローラーすべり台をすべったり。まだ、歩けないお友だちは保育士とお散歩をして風にあたり気持ち良さそうにしています。これから色々な行事が始まり、楽しい事がたくさんあります。この一年、子どもたちの成長を見守り、安全に留意し共に過ごしていきたいと思

石川ゆきの(保育士)

恵明キッズ コスモス ビレッツジ

楽しみがいっぱい

緑色の葉が風に揺れ、心地の良い季節となりました。今年度担当させていただいているコスモス組さんは元気がいっぱい毎日賑やかに過ごしています。憧れの年長組になり、富士山係、竹馬、お当番活動などいろいろなことに興味をもち、何でも全力で取り組んでいます。富士山係を通し、富士山の様子を良く見るようになり「富士山の雪が少ないね」など変化を楽しんでいます。みんなの前に立ち、緊張した様子も見られますが、自分の言葉でしっかりと伝えていきます。また、竹馬の練習を楽しみにしていて「竹馬したい」「今日は何歩歩けるかな」とわくわくしています。練習を始めた頃は思うように足が乗らず「難しい」「足が痛い」と言っていました。小学生のお兄さんお姉さんが一緒に練習してくれ「大丈夫！頑張ったらできるよ」と張り「皮が剥けるのは頑張っ

全力で取り組み、時には疲れてしまうこともありますが「コスモスさんだもん！できるよ」と生懸命取り組んでいます。これからもたくさんの方に挑戦し、大きく育っていくコ



た証拠」と教えてくれました。小学生とのやり取りを通していろいろなことを学び、更にはやる気が出たようです。今では「二歩歩けた」「僕は十歩」と嬉しそうに声がたくさん聞かれるようになりました。何でも

一人ひとりの笑顔

すみれ組になり、新しい生活が始まりました。制服を着る事、体操着に着替える事、まだまだ三歳の子どもたちには難しいのではと思いつながら迎えた初日の朝。「できない」「やっ」と子どもたちが訴えてきた時、どの様な対応をしようかなと、考えていました。しかし、予想していた子どもたちの姿はなく「できるよ」「こうでしょ」と、キラキラ輝く目、やる気に満ちあふれた表情でいっぱいでした。

初めての英語であそぼうのレッスンがあった日の事です。始まる前からワクワクした表情を浮かべる子。何が始まるだろうと少し不安そうな表情を見せる子と、子どもたちの表情はさまざまでした。レッスンは始まり楽しい雰囲気です。

遠藤 舞(保育士)

部屋中が包まれ始めると、不安そうな表情を見せていたお友だちから笑顔が見られる様になり、レッスンは終わると「楽しかったね。またやりたいな」という言葉が笑顔と一緒にかれました。

初めてがたくさんの生活の中には、子どもたちのいろいろな表情や現れが見られます。まだまだ自分の気持ちを上手に伝える事が難しいお友だち。



人ひとりの表情からその子の気持ちを考え、寄り添い、安心した気持ちで毎日を通しての様にしていきたいです。そして、一日の終わりのさようならの挨拶。一日の始まりのおはようございますの挨拶の時、その子が持つっているとびつかりの表情を見せてくれる様、毎日子どもたちと一緒に過ごす時間を大切にしていきたいと思っています。

竹内 愛(保育士)

初めての担任

私は今年度、初めてクラス担任になりました。担任を発表された時は、嬉しい気持ちとともに不安な気持ちもこみ上げてきました。しかし、不安を抱える私に先輩の先生達からアドバイスをしてもらい、初心に戻り、この年齢の子どもたちについて調べ、勉強し、また、クラスの一人ひとりの成長について昨年度の担任の先生と再確認をしました。

保育をしていく中で、自分の到らない点



などで反省もあり落ち込んだりしますが、子どもたちの笑顔を見るとすぐに前向きな気持ちになります。乳児のときから関わってきた子どもたちが今では先生やお友達と上手にコミュニケーションをとることができたり、一人で衣服の着脱ができるようになっていく姿など、近くで成長を感じることができ、とても嬉しいです。

村越 蓮華(保育士)

恵明コスモス児童センター

今年も新しい年度が始まりました！

恵明コスモスの丘の園庭には1本の桜の木があります。年々大きく成長し、毎年とてもきれいな花を咲かせています。コスモス児童クラブでは、新しい小学1年生を迎えてその桜の木の前で写真を撮ることにしています。みんなで新たな気持ちで写真を撮ると今年度も始まったんだなと、新しい気持ちになります。

入ってきたばかりの1年生の面倒を見てくれ、年上のお兄さん、お姉さんとしてとても張り切っています。昨年の夏休みには上級生の子どもたちが下級生もみんなで楽しめることをしようという発案をし、「玉探し」を企画してくれました。子ども同士で話し合いをし、いろいろな意見を出し合い、職員スタッフはなるべく見守る姿勢をとりました。

子どもたち自身で全学年が楽しめる方法を考え、とても楽しく有意義な時間を過ごすことができました。今年もどんなことができるか、子どもたちと楽しい計画を考え無理のないように取り入れていきたいと思っています。

4月の当初、今年も沢山の卒園生がコスモスの丘に来てくれました。入学式が終わり、晴れ姿を見せにきてくれた小学1年生、中学生、高校生になった子。その節目、節目で顔を見せに来てくれて、大きくなった子どもたちの姿

を見るのが出来、とても感慨深い気持ちになります。さらに5月には大学生も遊びにきてくれました。今後みんなが集まりやすく来やすい場所・・・コスモスの丘であり続けたいと思います。

脇 雅秀(センター長)



コラム

約15年前、園で年少児に「日曜日おうちで何して遊んだ？」との何気ない問いかけに「お母さんと図書館に行ってきたよ！そしておもしろい本かりてきたよ。また行くんだ！」との返答がありとても新鮮な感動を覚えました。お迎え時に玄関でお母さんに聞くとお休みの時などお母さんがお子さん2人を連れて図書館に行くことも多いとか。

その後もそのお子さんたちは本好きで、もちろん語彙・知識も豊富、視野も広く、立派な高校生、大学生になりました。今でも園の子どもたちとても頼りになるお兄さんとして園に遊びに来てくれています。

先日、やと会話が出来たようになった1歳児の子から思いがけず「きのうママと、バスに乗って図書館いって来たよ。えほんいっぱい来たよ」と報告があり、「はうと過日のやりとりを思い出しました！」

ゲームをしたり、スマホやYouTubeを見て過ごすことが多くなりがちな昨今の子どもたちですが、保護者の方の興味関心もさることながら、どうか図書館利用等も休日の行事の一つとして選択肢からはずれないようにしたいものです。

絵本をたくさん見て、たくさん読んでもらって、おおきなあれ！

恵明キッズ サクラ ビレッジ



笑顔で、温かく、
丁寧に！

満開の桜の下、こども園で一番賑やかな四月の玄関。笑顔で、温かく、丁寧に…を大切に子どもたち

ちをお迎えします。今年度もかわいいお友だちが入園し、小さな体で力一杯泣きながらお家の方の手から離れる。心配でたまらない気持ちをこらえながら、私へと託して下さい。私は「大丈夫だからね」と

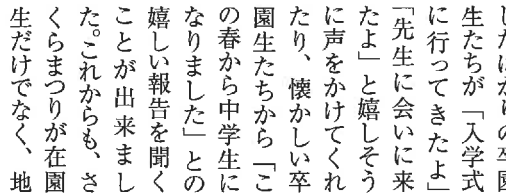
思いを込めて優しく抱きしめます。かつて私自身も我が子を預けたばかりの頃、何をしているのかな…泣いていないかな…と不安ばかりの日でした。今では「いつか必ず」と元気に学校へと向かう背中を見送る。またこども園の玄関まで私よりも先に走って入っていく。成長した我が子たちの姿が見られます。朝の玄関は数分の出来事ですが、お預かりする私にとるととても大切な時間です。今日も頑張つて来てくれたねと思いつつ泣いていた子が少しずつ心を開いて、私の両手の中へと来てくれる。嬉しい気持ちで一杯になると同時にお家の方へ、大丈夫ですよ。安心して下さいね。いつてらっしゃいと笑顔でお見送りすることができま

また子どもたちの表情などから、あれ…いつもより…と感じる時は担任の先生をはじめ、先生同士で共有し、気にかけてます。年齢が上がるにつれて我慢を覚え、気持ちを思い切り出さず頑張る子も沢山います。朝の玄関は一日の始まりとともに、一番心が不安になる時でもあります。寄り添い、共感し受けとめる。心が整い、楽しさや嬉しさで一杯の一日になりますように。笑顔で…温かく…丁寧に…を大切に明日もお迎えます。

杉村 みなみ(保育士)

お兄さんお姉さん

今年もサクラビレッジ恒例のさくらまつりが行われました。3月に卒園したばかりの卒園生たちが「入学式に行ってきたよ」「先生に会いに来たよ」と嬉しそうに声をかけてくれたり、懐かしい卒園生たちから「この春から中学生になりました」との嬉しい報告を聞くことが出来ました。さくらまつりが在園生だけでなく、地



域の方々や卒園生たちが集まる場所であり続けて欲しいな、と感じました。

新年度がスタートし、早いもので7ヶ月が経ちました。泣き声がたくさん聞こえていた小さい子組さんのお部屋が、今では可愛らしい笑い声が響き、職員とのスキンシップを楽しみ微笑ましい光景が見られます。大きい子組さんのお部屋には、子どもたちの元気一杯の音が響き渡り、毎日とても賑やかです。私が担当させて頂いている年長組さんの子どもたちは、登園して朝の身支度を終えると、すみれ組さんのお手伝いに行くのが日課になっています。最初はどやどやって小さい子のお手伝いしたら良いか戸惑っていた子も、今

ではとても頼もしいお兄さんお姉さんになりました。異年齢の子との関わりでしか得られない経験が、子どもたちを更に成長させていくてくれています。

土屋 恵里花(保育士)

信頼される先生に

今年度から恵明キッズサクラビレッジの職員となります。7ヶ月が過ぎようとしています。社会人としての一歩は不安と緊張の毎日でしたが、たくさんの子もたちとコミュニケーションをとっていく中で、いろいろなお話を聞かせてくれたり、笑顔で接してくれることが増えてきて保育という仕事のやりがいを感じています。

私はフリーとして主に

さくら組に入っています。さくら組の子どもたちはとても元気いっぱいでお外遊びが大好きです。お外では鬼ごっこや砂場遊びが人気で自分達でルールを決めて仲間を募る姿を見るとさすが年長組さんだと感じています。

室内では塗り絵や折り紙が人気です。「ぴよぴよんがえる作って」「言葉遊びを作ると」「ぼくのも作って」とお友達が寄ってきます。作って子ども達に渡すと笑顔で遊ぶ姿が見られ、私自身の自信が繋がります。せな気持ちになります。何かを作ると完成させることが好きな私の特技が生かされて良かったと感じる瞬間もあります。「先生これ作って」とリクエストがあっても作れるようにこれからもつ折り紙の腕前を上げていきたいと思っています。

このような生活の中で私は子どもたちから多くの元気をもらっています。子どもたちが安心して過ごせるような環境とは何かを考えながら、丁寧にコミュニケーションをとり、信頼される先生となるよう努力しつつ、子どもたちの成長を見守ってまいります。

山本 真歩(保育士)

恵明キッズ

ローズビレッジ



楽しい一日に
なりますように

新緑がさわやかな季節。ローズビレッジの新年度が心新たにはりきってスタートしました。朝の登園時子ども園の玄関では四月ならではの様々な表情が見られます。新入園のお友だちは大好きなお家の人と離れる際に大泣きをして離れたくないとアピールします。「ごめんね」と言いながら同時に心の中で(大丈夫だから安心してね)と繰り返し子どもたちを抱きとめます。慣れ保育期間中の新入園児は新しい環境に慣れるために生懸命頑張っています。職員は抱っこやおんぶ、声をかけながら片時も離れることはありません。今では少しずつ先生の顔を覚えてくれたり、笑ったりすることが増えていき、好きな遊びや、好きな場所を見つけています。そして降園時にはお家の方を見つけると大喜びで安心した顔になります。お家の方も少しずつ

園生活に慣れていく様子にほっとしているようです。在園のお友だちは「つクラスが上がり、お兄さん、お姉さんの顔つきになって胸をはって登園する様子が見られます。小さいお友だちや、新入園のお友だちを助けてくれたり、声をかけてくれたりとたくましさや優しい心が育っているようです。これから毎朝の「おはようございます」のあいさつがその日一日を楽しく安心して過ごせるようになると思いを込め、魔法の言葉になるように声をかけていきたいと思えます。

今年度も職員全員で、子どもたちの成長を楽しみながら見守っていきたくと思えます。
室伏 宏美(主任保育士)

めざそう！
ピンクハート

四月とは思えない程のポカポカな気候の中、園庭を駆け回っては額に汗をにじませる元気いっぱいの子どろみさん。先生が「少し難しい事をお願いしてもい



いかな？」と前置きして話し始める。「もうゆりぐみさんだからできる！」と姿勢を整える子どもたちの姿がとても輝いて見えます。

そんなゆり組さんは年間お友だちと楽しく過ごせるよう、みんなまでピンクのハートをめざそうと目標を立てました。気持ち、優しい気持ちになるとピンクのハート。悲しい・おこりんぼの気持ちは青や黒いハートになることを伝えました。すると「〇

〇ちゃんぐうしてくれだから〇〇ちゃんはピンクのハートだね。でも僕も嬉しかったから僕のハートもピンク」と、優しくした側も、してもらった側もピンクのハートになる事を発見した子がいました。それから毎日ピンクのハートだったお友だちをみんなで発表し合うことがゆり組さんの日課となり、そのつひとつのエピソードを聞くたびに心が温かくなります。

ランチの風景

子ども園でお友だちと生活をしていく中で、嬉しい・楽しい経験だけでなく、時には失敗をして悲しい悔しい経験もあります。子どもたちの喜怒哀楽の様々な感情を受け止め、心の成長に繋がっていくように年間見守っていきたいと思います。

加藤 美咲(保育士)

キッチンでランチを作っている、泣いている子どもたちの声が聞こえ新年度が始まったんだなと感じます。新しいお友だちも



子どもたちもたちらがランチルームに入っていると、とても賑やかになります。「やったい今日好きなご飯だ」「今日は嫌いだけど頑張る」など様々な声が聞こえます。「いただきます」

し、ランチが始まると、黙々と食べる子、お友だちとお話ししながら食べる子など、様々なお友だちがいます。みんなとても楽しんで、そうに食べてくれています。おかわりの時間になると、いつも半分くらいのお友だちがおかわりをしてくれます。サラタをおかわりする子も多く、ローズビレッジはお野菜好きな子がたくさんいてびっくりしています。ばら組さん、ゆり組さんはキッチンまでお片付けをしに来てくれ、大きな声で「ごちそうさまでした。おいしかったです」と言ってくれます。

今年度も子どもたちにおいしいと言ってもらえるようにキッチンのスタッフみんなで頑張っていきたいと思えます。
加瀬澤 朋代(栄養士)



恵明キッズサクラビレッジ

さくらまつり日和

4月6日(土)

2024年度が始まりました。今年は例年より桜の開花が遅く、
こども園の「さくらまつり」当日はお天気にも恵まれ、
上岩崎公園のサクラも満開でした。



園庭に伊豆箱根鉄道のみめ汽車が来園！ガタンゴトンガタンゴトン！体重の重い大人が乗って脱線するというハプニングもありましたが、みんなで楽しいひと時を過ごしました。

ようこそ！
さくらさくらの
お茶席へ！



満開の桜を見ながら親子で甘いお菓子とお茶を一服！
各こども園を3月に卒園したお友だちも
お茶席招待券を持って来てくれました。